

# 下京雅学校だより

後期学校評価特集

~SHIMOGYO-MIYABI News Letter~



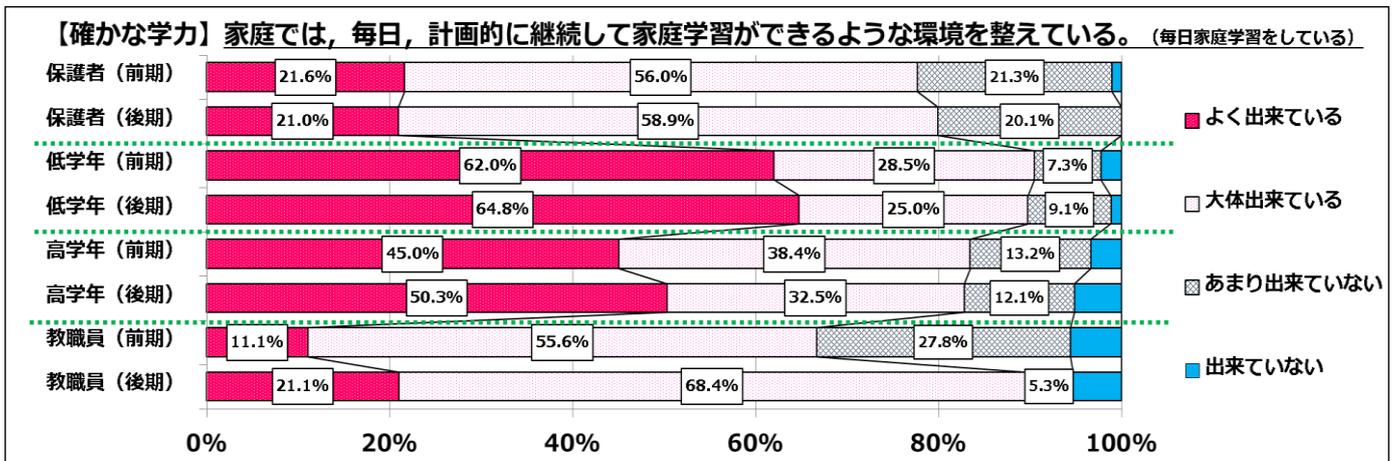
令和2年2月  
京都市立下京雅小学校

平素は、本校教育にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

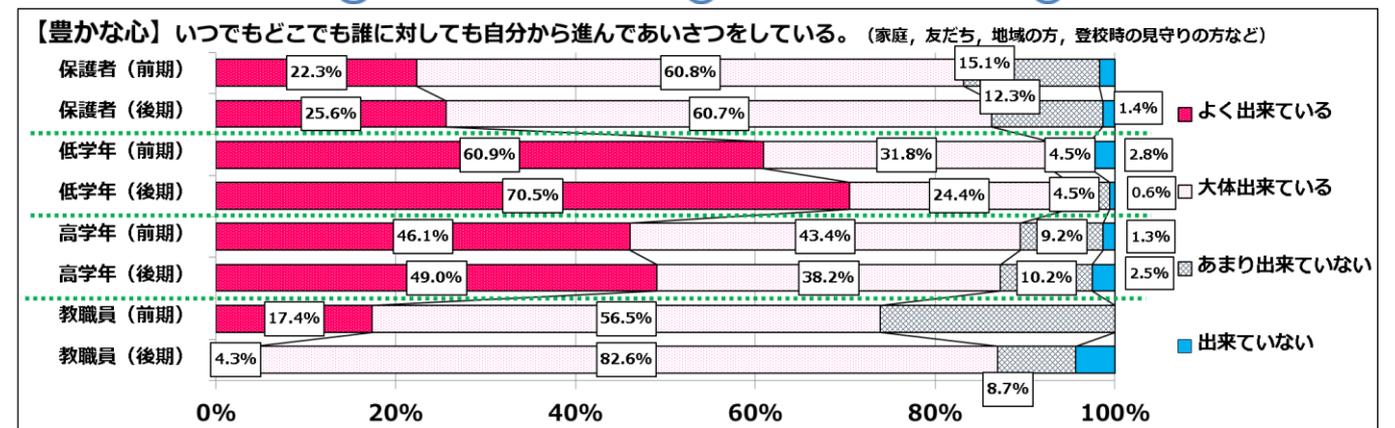
さて、12月に実施いたしました令和元年度後期学校評価アンケートの結果についてお知らせいたします。保護者の皆様と児童と教職員が共通の質問項目でアンケートをとり、前期と後期で比較しました。

保護者の皆様には、お忙しい中、ご協力をいただき、誠にありがとうございました。この結果をもとに、次年度の様々な取組を再確認し、よりよい学校づくりに生かしてまいります。

**【アンケート集計結果】**（「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」「いじめ防止等」「家庭・学校、地域との連携」の項目から一つを選んで分析しました。）



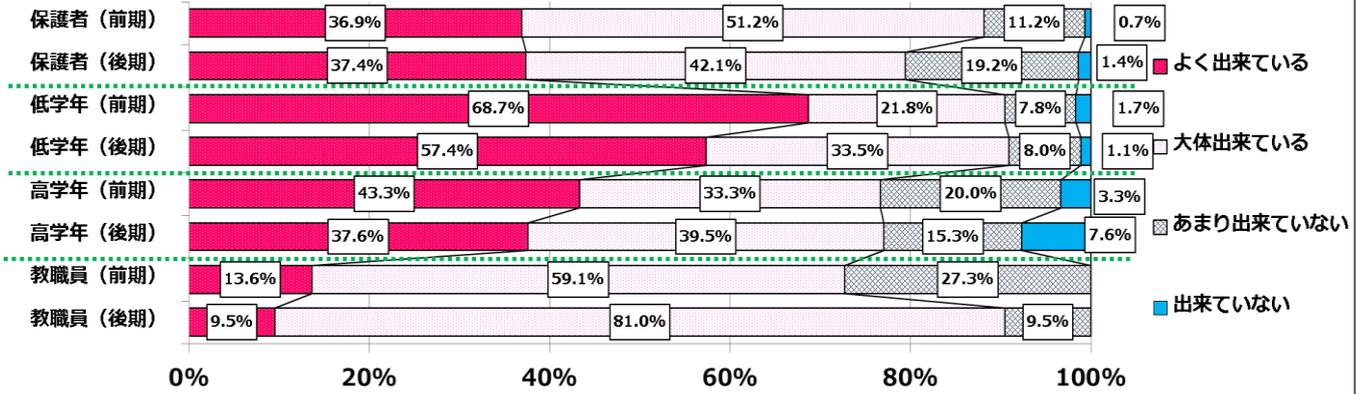
家庭学習は、学んだことを振り返り、確かな学力につなげるものです。毎日コツコツ続けていくことが、子どもたちの力となります。小学生のうちに家庭学習の習慣を身に付けることが、後々の学校生活に大きく影響します。このようなことから、教職員において、「よく出来ている」「大体出来ている」と回答した割合が、約10ポイント増加したことは嬉しい結果といえます。子どもたちが成長してきたことを表しているのではないかと思います。「先生や家の人に言われなくても宿題や課題をやることができる」「わからないことは自分で調べる」「興味・関心を持ったことを追求する」などという力を身に付けるためにも、子どもたちへの肯定的な声かけや家庭学習に取り組む時間の工夫などの支援を続けていきたいと考えます。



保護者・児童・教職員の全てにおいて、「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合が90%に迫るような高い評価となりました。これは非常に喜ばしいことです。子どもが毎日楽しく通える学校の実現に向け、学級づくりや学校全体の取組等の成果であると考えています。しかし、「あまり出来ていない」「出来ていない」と肯定的でない回答をした児童の割合が約5%~10%であるという事実も受け止めなければなりません。そのように回答した子どもたちと、積極的にコミュニケーションを図り、さらに、「楽しい」と感じる学級・学校づくりを進めていきたいと考えます。保護者の方々とも密に連絡を取り合い、すべての子どもたちにとって、学校という場所が楽しい存在となるよう、今後も取組を進めてまいります。

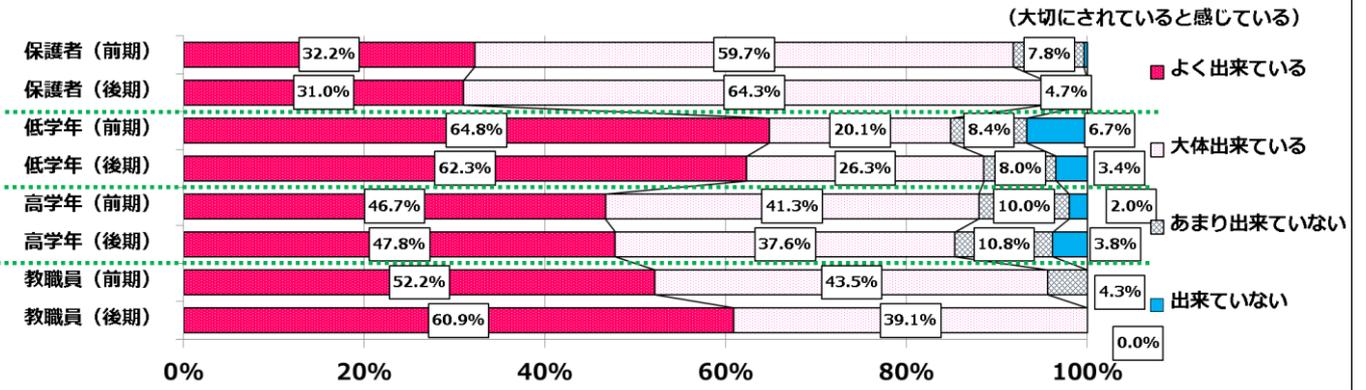
ご協力ありがとうございました。

**【健やかな体】家庭では、「早寝早起き朝ごはん」などの生活習慣が身につくように心がけている。** (生活習慣が身についている)



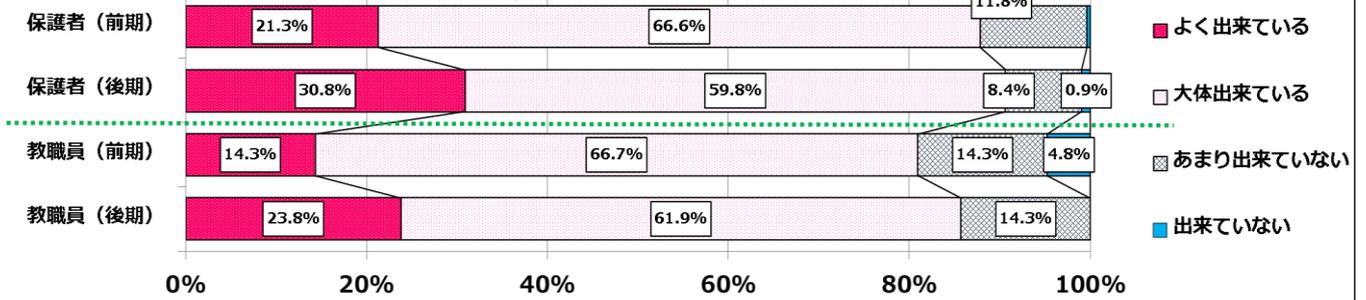
保護者について、「あまり出来ていない」「出来ていない」と否定的に回答した割合が、前期より高くなっていました。それとともに、高学年児童の「出来ていない」と回答した割合が、7.6%と高く、高学年になるにつれ、「早寝早起き朝ごはん」など、生活習慣についての意識が低下しがちになるのではないかと感じました。低学年のうち、保護者の方や教職員から、リズムを作るような働きかけを積極的に行い、高学年になると、自分の身体に関心を向けられるような働きかけを心がけたいものです。今回の結果が、子どもたちの生活習慣のリズムを整えるために、保護者の方ご自身の生活リズムを考えるきっかけとなればと考えています。

**【いじめ防止等】「いじめ」等についての認識を深め、子どもの様子をしっかりと見守っている。** (大切にされていると感じている)



低学年児童や高学年児童について、「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合は、前期とほぼ同じ割合でした。教職員については、「よく出来ている」「大体出来ている」と肯定的に回答した割合が100%となり、前期よりもいじめ等についての認識が深まっていると感じました。今後も、「自分は生まれてきてよかった」「自分の命を大切にしたい」「人の役に立ちたい」など、自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、自尊感情や自己肯定感を高める教育を進めていきます。

**【家庭・学校・地域との連携】学校と家庭が子どものことについて、遠慮なく相談できるよう、積極的に家庭と連携を図っている。**



保護者、教職員において、「よく出来ている」と肯定的に回答した割合が、前期と比べ約10%増加しました。統合三年目の今年度、下京雅五大フェスティバルを中心とした様々な取組を進めてまいりましたが、教職員の積極的に発信する意識が高まっていることは嬉しい結果です。次年度は、新校舎での教育活動がスタートします。学校の取組を保護者・地域と共有し、社会に開かれた学校の実現を目指すためにも、これまで以上に、一人一人の教職員の意識を高め、分かりやすく発信していきたいです。

これらの結果を、来年度の下京雅教育推進に活かしていきたいと思っております。